

組合に相談しよう
 不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…
練馬支部 03-3825-5522

けんせつ北部

定価三十円

購読料は組合費に含まれています。

発行所
 東京土建一般労働組合
 城北ブロック会議
 東京都豊島区西池袋5-22-15
 板橋 (3963) 5325
 練馬 (3825) 5522
 豊島 (3986) 2471
 北 (3902) 7121
 発行人 代表者 川合 正人
 発行日1日、9日、17日、25日

春の拡大最終盤

シン・拡大運動「シン」(進)行中

組織づくりの強化めざして奮闘

春の拡大月間(5月末まで)はいよいよ最終盤。事業所の対話と、個人のつながりによる組合未加入の知り合いへの声掛けや紹介、そして分会・群の仲間呼び掛けを広げて、目標を分会人数の3・5%、練馬支部全体219人に設定して取り組んでいます。

2024年度は春の拡大月間を「シン・拡大運動」と銘打ち、組織づくりの強化を前面に押し出しています。仲間の結集や交流にとどまらず、個人や分会内事業所のいずれの困りごとにも組合で相談できることを勧めて、「頼りになる分会・組合」をアピール。群会議や



成果表の前で笑顔を見せる学園分会の新加入者とオルグ⑥

「今いる仲間を守りながら、新たな仲間を迎え入れる」

小玉組織部長

います。このうち各分会では4月25、26の両日に夜間交流「ヤングマンの夜」を開催。気持ちも若い仲間が一堂に会してざっくばらんな話題で交流を深めたほか、今後の組織拡大に向けた作戦も話し合われました。

これまでの成果の特徴として、全体の約8割が事業所入職による加入。約2割が個人のつながりや紹介による加入、他組合からの切り替えによるものとなっており、東京土建国保や一人親方労災などの制度利用を求める加入が見られます。中でも西大泉分会は外国人従業員の福利厚生や、講習受講の目的から1事業所で4人が加入。中村分会は

分会交流日を中心に、分会センターへの仲間の結集に向けた取り組みが行われて

分会の仲間が未加入の知り合いに組合のメリットを説

は今いる仲間を守って減ら

支部出陣式で「この春の拡大」の意義を伝え、相談につながる。



目標達成に向けて結束を固めた支部と分会の役員

明、また高松分会は他組合加入者が転居を機に、現場の仲間から聞いた東京土

建の制度に魅力を感じたことで、その相談を呼び掛けて、分会な仲間を迎え入れまし

小玉祥子 組織部長は4月21日、6年ぶりに行われた「春の拡大」

また4月に始まった「働き方改革」の対応や、6月以降の「算定基礎届」の提出、外注の一人親方労災加入、偽装請負問題などの課題を抱える事業所にも組合

第95回中央メーデーが、このほど渋谷区の代々木公園で行われ、練馬支部の仲間79人を含む計1万2000人(主催者発表)が参加しました。恒例の出し物コンクールには青年部(赤松雄太郎)のメンバーらで手掛けた「万灯神輿」(全長3・1

m、幅2・2m、高さ2・0m)を出品。「練馬の仲間がこぞって楽しめれば」(赤松部長)との思いを込めて四方に各分会名が大書されたよう

一役買ってくれました。

ねほ大根



記者稼業はサツわり、すなわち警察取材から始まる。なぜか。警察は事件や事故が起きたら記者クラブに発表資料を送るが、それにはいつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように「の文章を作る上で欠かせない要素が凝縮されている。ただ、そのまま書き写したらデスクの大目玉を食らう。その情報を補強するため、捜査幹部や事件、事故の関係者に取材するが、警察官はほぼ署内で口を割らない。帰宅後や出勤前に直撃し聞き出す。こうしたプロセスを繰り返すことで情報の取り方、伝え方を知る。一方で、警察官も幹部への登壇門が広報。記者とやり合う中で情報をコントロールする

すべを身に付け、捜査をはじめ、諸活動の円滑化を図る。ということは、不利になる情報を流さないと考えらるべき。記者と警察官のやりとりに限ったことではない。情報は伝え手次第で見方も、考え方も変わる。だからうのみにせず、いったん立ち止まって吟味を。とはいえ、このコラム書きも能書きを垂れるほど血肉化しておらず、新米のまま。いい加減ときなさいと自身を戒める。(今)

